

- 1 議案名 平成29年度（平成28年度対象）徳島県教育委員会の点検・評価について
- 2 提案理由 徳島県教育委員会が自らの教育行政の管理・執行状況について点検・評価し、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表する必要があるため。
- 3 関係法令 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条

平成29年度徳島県教育行政点検・評価委員会 議事概要

(開催要領)

- 1 開催日時 平成29年9月7日(木) 午前10時から午前11時30分まで
- 2 場 所 県庁9階 教育委員室
- 3 出席者
 - 【委員】5名全員出席
南 育弘会長、祖川康子委員、中川朋子委員
原 憲史委員、三隅友子委員
 - 【県】 美馬教育長、勢井副教育長、森本教育次長、栗洲教育次長 他

(会議次第)

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員及び事務局職員紹介
- 4 議 事
 - (1) 教育委員会の点検・評価(案)の説明
 - (2) 質疑及び意見交換
- 5 閉 会

(配付資料)

- 1 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価の実施方針について
- 2 取組目標の達成状況(平成28年度対象)
- 3 教育委員会の点検・評価(案)

(委員からの御意見)

【基本方針1 新たな価値を創り出し、未来へ飛躍する人を育てる教育の実現】

○キャリア教育について

- ・インターンシップについては、件数を増やすだけでなく、何を学んでもらうのか、社会人の大変さを学ばせたいのか、社会に出る楽しさを学ばせたいのか、その目的をはっきりさせる必要があるのではないか。
- ・ゆこうを使って生産や販売、消費まで考えて商品をイメージするなど深いところまで考えて活動が図られていると感じた。エシカル消費など消費者教育にもつながり、地産地消や生産者の顔が見える消費者が増えていくと感じた。

○グローバル教育について

- ・ジュニア観光ガイドの取組が素晴らしいと感じた。徳島の魅力を発信することはもちろん、四国や近畿、九州など幅広く紹介できるとよいのではないか。
- ・グローバル教育は言語教育以前に、徳島や日本についての魅力を学び、自分自身で考え、何を伝えたいのかという意識を持たせることが大切である。

- ・留学については、件数を増やすだけでなく、どのような教育効果があるのかを考えることが大切である。海外の情勢をしっかりと見極めて、結果として留学生数が減ったとしてもそれは決して悪いことではない。
- ・留学生への対応や英語など、教員が知らないことや経験のないことをマイナスとして捉えるのではなく、そういう環境のなかで共に学んでいく姿勢を持ってもらうことが必要なのではないか。
- ・グローバル教育の視点はとても大切である。教員自身が世界情勢に目を向け、それを伝えられる資質が求められるのではないか。

○スポーツ振興と競技力向上について

- ・徳島はスポーツ施設が他府県に比べてもやはり少ない。既存の施設を有効に活用するなど、スポーツ環境を整えることが必要ではないか。
- ・競技力の向上を図り、国体の順位を上げるためにも、なぜそのような練習をするのかなど、動機付けの部分をもっと充実させることが必要ではないか。
- ・県内の実業団と中高生がともに活動する機会を設けるなど、県内の資源を有効に活用しながらレベル向上を図っていく必要があるのではないか。
- ・スポーツの苦手な子供に対してどのように関わって、スポーツを好きにさせていくのかが、長い目で見ると競技力向上につながるのではないか。

【基本方針2 知・徳・体の調和がとれ、社会を生き抜く力を育てる教育の実現】

○食育の推進について

- ・学校給食における地場産物の活用について、地場産物を活用するためのレシピやマニュアルを作成したのは新しい取組ですばらしいと感じた。県産の肉や魚は価格の問題で活用が難しい面があるとのことだが、工夫して活用できるようにしてもらいたい。

【その他全般的な御意見】

- ・教員の多忙化が進んでいると言われており、現場の先生方がもう少し余裕を持って子供たちを指導できるような体制づくりを進めてもらいたい。そのなかで、研修の時間をどう確保していくかについても検討してもらいたい。
- ・交通マナーアップクラブなど生徒が自主的に交通安全を推進する施策はあるが、ヘルメットの着用が徹底されていないので、周りの大人から示すことで、子供たちも変わってくるのではないか。
- ・空調設備の利用について、保護者負担が増えないよう対策を検討してもらいたい。
- ・地域や保護者は学校教育に対して様々な要望を持っている。それに真摯に対応していくことが魅力ある徳島の教育の実現につながるのではないか。
- ・非常に多くの施策が行われているが、各施策の目標が現場の教員や生徒にどれだけ伝わっているのかを見据えた上で何をやるべきかを考えなければいけない。